# きらきらコンサートの取組について

小学部教諭　５年１組　河場哲史

## Ⅰ　きらきらコンサートの概要

本校では，「幼児・児童が，プロの演奏家による歌やピアノ，打楽器の演奏を聴いたり，演奏に参加したりすることを通して，生演奏の迫力に触れたり，楽しんだりすること」を，主なねらいとして，「きらきらコンサート」と題して，本校を会場に，年一回のコンサートを実施している。2012 年（平成 24 年）から 2014 年（平成 26 年）までの三年間は，ジャズピアニストの谷川賢作さんの単独コンサートという形式で，2015 年（平成 27 年）から 2019 年（令和元年）の５年間は，谷川さんに加えてパーカッショニストの安井希久子さんの２名によるコンサートの形式で実施している。この「きらきらコンサート」では，演奏を聴かせていただくだけでなく，実際に楽器に触れさせていただき，一緒に音を奏でたり，幼児・児童になじみのある曲を一緒に演奏したり，好きな絵本の読み聞かせに演奏を合わせていただいたり，教育実習生が演奏に参加したりなど，様々な取り組みを行ってきた。昨年度は，児童が自作した曲を一緒に演奏しながら披露する等，本校の幼児・児童にとって，音楽についての興味や関心を深める重要な行事となっている。

## Ⅱ　活動内容

今年度は，感染症予防の観点から，一堂に会してのコンサートを実施することが不可能となったが，谷川さんと安井さんの演奏を幼児・児童に届けることはできないかと検討を重ね，演奏を録画した動画を学級ごとに鑑賞させていただく形式で実施した。そこで，「幼児・児童が，プロの演奏家の演奏を，友達や教師と一緒に楽しむこと」，「演奏の視聴を通して，曲や楽器等についての関心を広げること」の２点をねらいとすることとした。併せて，谷川さんと安井さんとの距離が離れていても，つながっていることを幼児・児童に実感してもらいたいと考え，Web 会議システムを使用しての開会式を設定することとした。演奏をお願いするにあたっての選曲については，事前に教師に幼児・児童の好きな曲や絵本などをアンケートで聞き取り，それらの中から谷川さん，安井さんと相談して決定した。具体的な活動内容は表１のとおりである。またコンサート当日に向けて，各学級で事前に学習を行いやすくするために，担当の分掌部で演奏曲の音源，歌詞カード，谷川さんと安井さんの紹介スライド，演奏曲を紹介するためのイラストと文字のスライドを用意し，自由に使用できるようにした。

表１　今年度の活動内容

| | 開会式（Web 会議システム） | 演奏などの動画（８本） |
|---|---|---|
| 活　動 | ①谷川さんから一言<br>（当日はコメントだけでなく厚意で楽器紹介や簡単な演奏を披露していただいた。）<br>②校長先生の話<br>③児童代表お礼の言葉<br> <br>**写真１　お礼の言葉を述べる小５児童** | ・「とんとんとんとんとんひげじいさん」･･･本校からのリクエスト曲<br>・「おばけなんてないさ」･･･本校からのリクエスト曲<br>・「きゅうしょく」･･･谷川さんのオリジナル曲<br>・「くじら」･･･谷川さんのオリジナル曲<br>・「おべんとうバス」･･･教師が絵本の読み聞かせを行った動画に演奏動画を合わせて，安井さんに編集をしていただいたもの<br>・「校歌」･･･通常の演奏，ボサノバ風の演奏の２種類を用意していただいた。通常の演奏には教師の歌う動画を合わせて，教師が編集したものを用意した。<br>・「安井さんのビデオメッセージ」･･･都合により開会式に参加できなかった安井さんから提供していただいたもの |

※活動で使用した曲や絵本の作詞者と作曲者については別紙__参照

開会式には，Web 会議システムを使用して全学級が参加し，動画視聴は学級ごとに実施し，それぞれの幼児・児童の実態に合わせて，八本の動画の中から選択して視聴した。

## Ⅲ　幼児・児童の様子

### １　幼稚部

開会式では，概ね谷川さんの演奏を楽しんだり，校長や友達の話をよく聞いたりすることができていた。椅子に座ることが難しい幼児もいたが，教室のそれぞれの場所からテレビ画面を見ることがで

きた。動画視聴では，画面をよく注目していた。知っている歌がたくさんあって楽しめていた。年長の学級は，すべての映像を見ることができ，リクエストも含め合計で１時間程度楽しむことができた。学級でも実際に使用される打楽器等を用意したことで，映像を見ながら音を鳴らして楽しんでいた。

写真２　ひよこ組の様子

写真３　りす組の様子

写真４　うさぎ組の様子

２　小学部

低学年は，開会式では，谷川さんの働き掛けに，手を挙げて話したいことを表したり，登場する楽器を見て，「すごいね。」と言ったり笑顔を見せたりして喜んでいた様子が見られた反面，開会式を長く感じて集中が途切れたり，途中で音声が途切れたことから怒ったりする児童もいた。動画視聴では，リラックスしながら，画面によく注目して見ていた。視聴中に知っている曲を口ずさんだり，体を揺らしたりダンスを踊ったりして楽しむことができた。また，曲のテンポに合わせて「速く。」や「次はゆっくり。」など，楽しそうに話をする様子も見られた。一通り見終わった後に「もう１回見たい。」との声が上がったので，リクエストがあった曲をアンコールとして視聴した学級もあった。また，演奏中の手元をよく注目して見ていた児童もいた。

高学年は，開会式では，楽器の音が途切れることもあったが，谷川さんをよく見ていた。動画視聴では，演奏している楽器がアップになったり，キャラクターが動いたりするところをよく見ていた。また，知っている歌を口ずさむ児童，体を揺らして楽しむ児童が多かった。テンポの変化や，トントントントンなどの歌詞の変化を楽しんで，まねして歌っている児童もいた。「おべんとうバス」や「校歌」では，学級の担任や知っている教師を見付けて，名前を呼んだり，一緒に歌ったりしていた。棚を配置し，空間を狭くしたことで，立ったり歩いたりする児童もテレビ画面に注目することができた学級もあった。

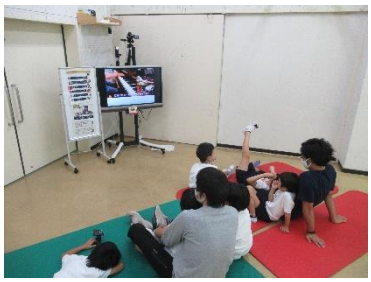

写真５　小学部１年生の様子

写真６　小学部５年生の様子

写真７　小学部６年生の様子

## Ⅳ　まとめ

今年度の「きらきらコンサート」の成果と課題を次に述べる。

### １　成果

視聴しやすい広さや，視聴する体勢などの環境を整えることで集中しやすくし，幼児・児童にとってなじみがあり大好きな曲であれば，動画の視聴を繰り返し楽しめることが明らかになった。また映像を作成する際に，演奏している手元や楽器がアップになったり，キャラクターが動いたり，テンポや歌詞が変わったりするところをよく観たり聴いたりする傾向があることも分かってきた。学級の担任や知っている教師を見付けて，名前を呼んだり，一緒に歌ったりしていたことから，知っている人が登場することも有効な手段であると言える。実際に使用される打楽器等を用意したことで，映像を見ながら音を鳴らして楽しんでいたことから，視聴しながらの楽器演奏も楽しく活動を進めて行く上で効果的であった。

### ２　課題

幼児や低学年の児童にとっては，集中したり落ち着いて視聴したりするためには，音声の安定が重要なポイントであるので，接続の安定や音の大小などの機器の調整を丁寧に確認しながら進める必要があると考えられる。

# 交流及び共同学習の取組について

小学部　６年１組　教諭　久野智宏

## Ⅰ　交流及び共同学習の概要

小学部では平成 11 年度から，横須賀市立 A 小学校と交流及び共同学習に取り組んでいる。A 小学校との交流及び共同学習は，A 小学校の６年生の中から，交流学級が決められ，一つの学級を六つのグループに分け，本校の各学年の児童と交流をしている。本校の児童は，交流及び共同学習を通して，A 小学校の児童について知り，関わりを通して社会性を養うことをねらいとしている。A 小学校は，交流及び共同学習を「総合的な学習の時間」に位置付け，本校の児童と活動する中で，障害児とのコミュニケーションの仕方や遊び方などについて学ぶ機会としている。

昨年度は，５回の交流及び共同学習に取り組んだ。両校は事前準備として，児童の名前と顔写真，好きな物が示された自己紹介カードを作成し，交換した。本校では，各学級で教室内に自己紹介カードを掲示し，A 小学校の児童について事前に知る機会を設けた。また，本校の交流及び共同学習の担当教師が，A 小学校で出前授業を行い，本校の概要や障害理解などについて伝える機会があった。

交流活動では，本校と A 小学校の児童が交互に相手校を訪問し，運動や工作，簡単なゲームなどを一緒に行った。A 小学校に本校の児童が訪問した際には，A 小学校の児童がプログラミングした簡単なゲームをする学級もあった。こうした活動を通して，本校の児童は，A 小学校の児童の誘い掛けを受け入れ，少しずつ，様々な活動に参加するとともに，いろいろな関わりを経験することができるようになってきた。A 小学校の児童にとっては，本校の児童との関わりを通して，本校の児童と一緒に楽しめる活動を計画して一緒に楽しんだり，一人一人が分かる方法で関わろうとしたり，積極的に関わろうとするようになってきた。

今年度は，感染症予防の観点から，従来の直接的な交流活動を実施することが難しかった。そうした状況であっても，児童一人一人が，相手のことを知り，自分のことを表現したり，相手の働き掛けを受け入れたりする経験を積むことができるように，従来の活動内容を変更して取り組む必要があった。そこで，Web 会議システムを活用して，間接的な交流活動に取り組んだ。間接的な交流活動では，必要な機材の関係から，A 小学校児童を本校の特別教室に招き，各学級と Web 会議システムを介してつながり，活動に取り組むこととした。

## Ⅱ　活動内容

**表１　今年度の活動内容**

| | １回目（９月 14 日） | ２回目（11 月 13 日） |
|---|---|---|
| 活動 | １　始めの挨拶<br>２　手遊び<br>３　体操<br>（「パプリカ」作詞作曲　米津玄師）<br>４　お知らせ<br>A 小学校児童の発表（ダンス・劇）<br>５　終わりの挨拶<br><br>【活動場所】<br>各学年の教室，第一プレイルーム | １　自己紹介<br>２　ダンス「パプリカ」<br>「くりはま体操（作詞作曲　工藤久美）」<br>３　A 小学校児童の発表<br>小１：クイズとお話（紙芝居）<br>小２：指人形<br>小３：ダンスと劇<br>小４：クイズと紙芝居<br>小５：絵尻取りと読み聞かせ<br>小６：紙芝居<br>【活動場所】<br>各学年の教室，会議室等の特別教室（６か所） |

## Ⅲ　児童の様子

初回の交流は，小学部チャンネルにＡ小学校の児童も参加した。画面にＡ小学校の児童が映ると，教室に掲示してある自己紹介カードを見て顔と名前を確認し，画面に映っていないと「○○ちゃん，いないね。」と言葉にする児童がいた。Ａ小学校の児童は，劇を発表したが，音声が聞こえにくかったことで，画面を見続けることが難しい児童が多かった。しかし，Ａ小学校の児童が，ダンスを披露すると，再び画面に視線を向けたり，席に戻ったりする児童もいた。

２回目の交流では，各学年に分かれて交流を行った。Web 会議システムを予定より早い時間から接続し，自由に手を振ったり，画面越しに言葉を掛け合ったりする時間を設けた。自己紹介では，画面に視線を向け，Ａ小学校児童の自己紹介を聞き，相手の名前を繰り返し言う様子が見られた。本校児童が自己紹介をする際には，カメラに向かって自己紹介カードを見せたり，教師と一緒に自分の名前を言ったりすることができた。Ａ小学校の児童が各学年の実態に応じて企画した発表では，絵本の読み聞かせ等，画面に映りやすく，内容が分かりやすいものが多かったため，画面に視線を向ける児童が多かった。

写真１　初回の交流の様子

写真２　絵本の読み聞かせ

写真３　自己紹介

## Ⅳ　まとめ

### １　成果

２回目の交流では，両校の児童が画面越しに互いに手を振り合う等，Web 会議システム上で自由にやり取りする時間を設けたことで，相手の存在を意識して，自己紹介をすることができた。Ａ小学校の児童の発表は，本校の児童にとって親しみのある内容が多く，じっと画面を見ていたり，Ａ小学校の児童の言葉掛けに対して，言葉や身振りで答えたりする児童がいた。相手と自由にやり取りする時間があったことで，画面越しでも自分の働き掛けが相手に伝わり，反応が返ってくることを実感し，画面に視線を向けやすくなったと考えられる。また，Ａ小学校の児童が行った発表の多くは，紙芝居や絵本の読み聞かせなど，視覚的に見て，内容の分かりやすいものが多かった。Web 会議システム上で，視覚的に見て内容が分かり，相手とのやり取りを伴うものが教材として適していると考えられる。

### ２　課題

オンラインでの交流活動では，相手の細かな表情や声色の変化，体の動きなどが分かりにくく，相手との距離感や関係性の間で生じる間合いなどに気付きにくく，相手の反応を伺いながらやり取りをすることが難しかった。そのため，両校の児童にとって，互いを知り，関わり合うという点では制約があった。Ａ小学校の児童が，呼び掛けても，画面越しであるため，本校の児童が応答することは難しく，Ａ小学校の児童からの一方的な働き掛けが多かった。Web 会議システム上では，相手からの視線の向きや相手との距離感など，自分が働き掛けられているという実感をもてる手掛かりが少ないため，やり取りが成立しづらかったと考えられる。また，働き掛ける側も相手から反応が返ってこないので，自分の働き掛けが相手に伝わったという実感を抱くことも難しかった。Web 会議システム上で交流活動を行う際には，直接的な交流活動と同様に自分の働き掛けが相手に伝わったという実感が伴うように，相手の反応を表した表情の描かれたイラストなど，コミュニケーションを視覚的に補助する教材を用意したり，双方向のやり取りが伴うような活動を設定したりすることが必要と考えられる。

＜小学部チャンネルの取組＞

# 小学部チャンネルの取組について

小学部教諭　５年１組　河場哲史

## Ⅰ　小学部チャンネルの概要

本校小学部では，児童が一堂に会し互いのことをよく知る機会とすること，人前での挨拶や司会進行や発表等を経験する機会とすることなどをねらいとして，平成 29 年度より，学部集会を月１回の年８回程度実施してきた。これらの活動を通して，児童が友達や教師に関心をもったり，司会や挨拶などの役割を担ったり，自分たちの学習の成果を発表したりすることができるようになってきた。

今年度は，感染症予防の観点から，他学級と合同で活動することができず，小学部児童が一堂に会しての学部集会を実施することが不可能となった。そこで，他学級の児童や教師と間接的にでも関わったり，互いの様子を確認し合ったり，日頃の学習の成果を発表したりする機会を設定できないかと考え，一斉休業期間中のオンラインでの授業でも使用した Web 会議システムを活用し，学部集会の新たな形として小学部チャンネルを実施することとした。３か月の休業期間と併せて，学校再開後も他学級の児童同士の関わる機会をもたせることが難しく，新たな取組であることなどから，「他学年の友達や教師について知ること」，「活動内容を理解し，学級の友達や教師と関わりながら活動に参加すること」の２点を学部全体のねらいとして設定した。

## Ⅱ　活動内容

表１　今年度の活動内容

| | １回目（7/16） | ２回目（9/14） | ３回目（10/2） | ４回目（11/18） | ５回目（12/17） |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当 | ６年生 | ６年生 | ５年生 | ４年生 | ６年生 |
| 活動 | １始めの挨拶<br>２集まりの歌<br>３転入生と１年生の紹介<br>４終わりの挨拶 | １始めの挨拶<br>２集まりの歌<br>３ダンス「パプリカ」<br>４発表（交流校）<br>５終わりの挨拶<br>（A 小学校６年生との交流及び共同学習として実施） | １始めの挨拶<br>２集まりの歌<br>３ダンス「パプリカ」（６年生映像）<br>４発表「きらきらぼし」（５年生）<br>５終わりの挨拶 | １始めの挨拶<br>２集まりの歌<br>３ダンス「パプリカ」（３年生映像）<br>４研修生の紹介<br>絵本読み「おおきなかぶ」（教員）<br>５終わりの挨拶 | １始めの挨拶<br>２集まりの歌<br>３手遊び「やきいもグーチーパー」（教師作成映像）<br>４研修生の紹介<br>発表「修学旅行」（６年生）<br>５終わりの挨拶 |

※活動で使用した曲や絵本の作詞者と作曲者については別紙__参照

小学部チャンネル実施後に，毎回，各学級で評価を行い，学部会や学級主任会において，学部全体で反省点や次時への改善点を共通理解しながら活動を進めていった。

## Ⅲ　児童の様子と次時へ向けての改善のポイント

１回目の活動では休業期間中に Web 会議システムに慣れていたことから，画面に注目できたり映っている友達に気付いて呼名をしたり，司会等の役割に集中して取り組めたりしたといった様子が見られた反面，学年によっては画面に集中できずに注意がそれてしまったり，興味をもてず，自分の席を離れて立ち歩いてしまったりする児童の様子も見られた。そこで次回に向けて，次の５点を確認した。

- 児童の集中時間を考え，活動時間を 30 分程度にすること。
- 活動に目的意識をもたせるために，手遊びや体操やダンス，絵本の読み聞かせや季節の歌，パネルシアターなどの興味のある楽しみな活動を盛り込むこと。
- 活動にメリハリを付けるために，動的な活動と静的な活動を交互にバランスよく配置すること。
- それぞれの活動の始まりと終わりを明確に意識できるように，それらを視覚的に分かりやすく提示すること。
- 画面越しでのやり取りを，具体物を操作することでより実感しやすくするために，学年を表示するうちわの教材等を進行する係の児童や教師と，各学級の児童の双方に準備すること。

２回目の活動では表１のとおり，A 小学校６年生との交流及び共同学習として実施した。小学部チャンネルが２回目ということもあり，前回よりも落ち着いて参加できた児童が多かった。今回から取り入れたダンス「パプリカ」は，児童にとって興味・関心が高く，なじみがあって好きな活動であるため，積極的に参加したり楽しめたりした学年が多かった。しかし，ダンスの前半の音が聞き取りにくかったり，分割画面であったために，手本の児童のダンスが見えにくかったり，手本のダンスを踊っている児

童にとって，自分が全体に対してどのように映っているのかが分かりにくかったりしたという反省があがった。音量の調整や画面の操作，手本のダンスの見せ方などに課題が残った。そこで次回に向けて，次の２点を確認した。

| |
|---|
| ・次回もダンス「パプリカ」を行うが，事前に録画した物に歌詞を入れ，画面共有で視聴すること。<br>・画面の切り替えなどのパソコンの操作を教員が行うこと。 |

３回目の活動では，今までの積み重ねもあり，画面をよく見て，知っている教師や友達に手を振ったり，画面越しに呼び掛けられると返事をしたりする児童の姿が見られた。また，録画した歌詞付きのダンス映像を流したので，画面に映る児童の動きをまねたり，歌詞を口ずさんだりする様子が見られた。発表「きらきらぼし」も動画を上映した結果，画面に集中してよく見ていた。併せて，発表を担当した学年も，当日が発表の本番といった過度の緊張感もなく，自分たちの合奏を楽しみながら視聴することができた。司会等の役割を担った児童は，教師と一緒に集まりの歌を歌ったり，カメラに向かって呼び掛けたりするなど，自分の役割を理解して最後まで取り組むことができたが，マイクの収音等の関係で，自分の言葉が画面越しの相手に十分に届かず，本人としては，懸命に伝えているが，教師が，何度かやり直しを求めざるを得ない場面があったことが反省としてあげられた。そこで次回に向けて，次の２点を確認した。

| |
|---|
| ・児童一人一人の発信したことが，相手に伝わっているということを感じることができるように，教師が児童の表現を受け止めながら「～君が，手を振っているよ。」等，他学級の児童や教師の応答や様子を伝えること。<br>・画面越しであっても，他学級の児童や教師との一体感を得ることができるように，教師が絵本の読み聞かせをしている動画を視聴しながら，声を出したり，体を動かしたりするなど新たな活動に挑戦すること。 |

４回目の活動では，映像に注目するとともに，画面に映る他学級の友達や教師に手を振ったり，言葉を掛けたりする様子が増えた。また，「おおきなかぶ」の読み聞かせや演劇をしている映像を視聴することを楽しむとともに，教師や友達と一緒に体を動かしたり，掛け声を掛け合ったりする活動に取り組み，内容を理解して楽しむ様子が増えてきた一方で，活動そのものに集中できない様子が見られる児童も出てきた。併せて，ダンス「パプリカ」を繰り返し行ってきたことで，児童によっては興味が薄れている様子が見られるようになってきた。そこで次回に向けて，次の３点を確認した。

| |
|---|
| ・活動により集中することができるように，進行を教師が行うこと。<br>・季節の手遊び歌「やきいもグーチーパー」を教師が歌ったり，手遊びをしたりしている映像を用いた活動を行うこと。<br>・上級生の生活に興味をもったり，憧れの気持ちを抱いたりすることができるように，小学部６年生に修学旅行の思い出を発表してもらうこと。 |

５回目の活動では，画面に映る他学級の友達や教師に呼名をしたり，手を振ったり，言葉を掛けたりする様子が更に増えてきた。少し早めに接続することで落ち着いたり期待感をもったりして参加できる児童も増えてきた。手遊び歌「やきいもグーチーパー」では，画面を見ながら歌を口ずさんで動きをまねしたり，じゃんけんに勝つようにグーチョキパーをして楽しむ児童がいたりした。修学旅行に関しては，関心の高さもあり集中して見入っている児童の姿もあった。全体を通して，回を重ねるごとに画面越しでも友達や教師との関わりややり取りが増えてきている。一方で，Web 会議システムの難しさとして，マイクを基本的にミュートにしていることなどから，特にスポットを当てた画面では相手の反応が確認しにくいという課題は残った。そこで次回に向けて，次の点を確認した。

| |
|---|
| ・教師が進行をする場合，拠点となる教室で，児童と一緒に司会をすること。 |

## Ⅳ　まとめ

今年度の５回の小学部チャンネルの成果と課題を次に述べる。

### １　成果

音量の調整や見やすさを考慮した画面の切り替えなどの環境を整えて集中しやすくし，児童にとってなじみがあり分かりやすく繰り返しや動きの面白さが伝わる映像や，興味・関心の高いテーマ（今年度は修学旅行）を用いることで，画面越しであっても相手に意識を向けたり，働き掛けに反応したり，自分から働き掛けたりすることができるようになることが，今年度の実践より明らかになった。

### ２　課題

相手の反応を確認しながら活動を進行していくことの難しさが改善されていない。教師の児童への働き掛け方，情報機器の取り扱い方や，活動内容に合わせた使い方の工夫など，様々な観点から再検討する必要があると考えられる。